

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和５年６月５日～令和５年６月２５日）

- 【注記】
- ・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
 - ・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との関係	ご意見
1	市民	誘致に賛成ですが、駅の東側だけでなく、西側の整備もJR西日本を巻き込んで実施していただきたいと考えます。
2	市民	何故、あの場所なのか？ 旧役所跡地で、何故駄目なのか？ アクセスはどうするのか？ 踏切、アンダーパス等、問題が山積みでは？ 早々とスタバが、出来上がりつつありますが？。問題では？ 説明会で初めからあの場所ありきの説明では納得出来ないし、説明・回答の仕方になってない。かなり、問題なのでは？。 どの様な進め方を、されてたのでしょうか？。 まだまだ問題山積みでは？。 再度、きっちり見直して頂き、説明をお願いします。
3	市民	産業会館への新築移転構想の白紙撤回を求めます。 近隣各マンション住民への説明会を、市長参加で早急に実施し、住民の声を聞くことを求めます。マンションはただの建物ではなく、その中には多くの人の暮らしがあります。近隣住民の声を無視せず、住民ファーストの政治を忘れないでほしい。
4	市民	24頁下段ウに「今後地域医療支援病院の認定取得を目指す」と記載がありますが、現実認定が許可されると非常に高い患者紹介率を維持しないといけなくなり、紹介状のない初診料は高額になります。 「駅近の医療施設でしかも24時間対応ができて」いいじゃないと思わせる一面のみ報告して将来初診料が高額になる、紹介状が必要になることの説明がされていないのは説明不十分と考える。 2番目に職員駐車場が決定的に不足すると考える。多くの職員は電車での通勤でなく自家用車を使用し、現在も広大な駐車場を借用もしくは保有してるのに対応策がない、もしくは示されない。このまま駅前に移転されると駅周辺の空き家は軒並み駐車場に代わり駅周辺の賑わいを取り戻す計画とは真逆と思うが。 第3に候補地の交通事情に与える影響は病院の性格上デメリットである。大規模な道路計画があれば別だが病院への車でのアクセスが悪く、病院への車の往來のために駅周辺の混雑をさらに悪化させる立地である事が想像できる。 4番目に病院が移転すると賑わいが取り戻せますか？いま高田市には3つの病院がありますが、病院周辺が賑わっているとは思えないのですが。電車を利用したの通院や通勤の方の数がさほど多くないのに駅直結のメリットがあるのでしょうか。 移転、新規建て替えは賛成します。病院機能も賛成します。今の候補地には断固反対です。
5	市民	JR東側への移転は良いと思います。 今、ライフ跡地に広い土地がありますが…あの場所と産業会館の土地を使って向かい合わせに新築出来たら良いのと思います。本館別館の道路の上を移動通路にすればそこそこの規模で建てられませんか？駅も近いし見舞いにも行きやすいですし手土産もトナリエで買えるし。 素人意見ですがせっかく意見の場を作って頂いたので投稿しました。
6	市民	市が進めているJR東側案については反対です。 まず第一に県の施設である産業会館を無くすというのはもってのほかです。高田市の県の出先機関が無くなることの損失をどう考えていますか？かねてから檀原市に流出移転していく姿を見て、市民として食い止めてほしいと思っていました。今回は、県が不要と言っている訳では無く、自ら市が買い取って、市民病院の有力候補地とすることに驚きました。産業会館の前を毎日通って、賑わっている姿を見えています。 第二にJR東側は、車のアクセスが悪いのは明白です。緊急時にアンダーパスやJRの踏切など、一刻を争う時に心配です。 第三に何よりも県の施設の立ち退き、並びに駅からのアクセスに余計な費用がかかります。私が思うのは、市役所跡地が最適です。コーヒーショップは要りません！ 今すぐ余計な費用をかけずに、すぐに市立病院の杭を打てるのは、市役所跡地です。 役所通りに市の施設を集結させてください。そして、コミュニティバスを小型化して各駅と繋ぐルートを頻繁に走らせて欲しいです。
7	市民	ほとんどの病院利用者は車を利用しています。現在、産業会館周辺は通常でも信号機による自然渋滞が起こっていますが、病院移転をした場合、大変な道路渋滞となるのは間違いないと思います。 交通弱者が駅周辺だと便利と考えているようですが、近鉄大和高田駅の時刻表を見てください。頻繁にバスが出ていますか？通院時間にあうバスがどれほど出ていますか？こんな使い勝手の悪いバスよりも病院利用者は車を利用するのではないですか？ 産業会館を取り壊し、駅前開発して病院を建てるなど、税金の無駄です。現在ある場所で市民病院を耐震化すればいいだけの事。市立病院移転は反対です。
8	市内で事業（その他の活動）を行う者	【ご意見】 ①新病院整備基本構想書（案）を拝見いたしました。 説明が不十分で市民にどのような意見を求めているのか判らない。 意見の丸投げでは、意見を求めたと言う実績だけを必要としたように思える。 パブリックコメントはどのように具体的に反映されるのか教えて下さい。 【新病院整備について】 ②現病院の老朽化は、耐震的にも早急な対応が必要です。 現病院の長期修繕計画はどのような計画であったのかの説明が抜けています。 病院は建てたら終わりではなく、長期計画に基づいて運営されているはずです。 現病院の長期修繕計画書の内容を教えてください。 ③病院整備の基本な考え方に長期にわたり良質な医療の提供でき、利用しやすい環境を整えた5項目には、快適性、施設設備の充実、機能性、安全性、経済性とあります。 重要項目として市民が利用しやすい環境の整備が欠けているように思えます。 具体的には、周辺道路の整備や周辺の災害(洪水)の危険性の整備は、どのように考えているのでしょうか。 ④市が提供する少ない情報から判断するのは難しいのですが、現在の病院敷地にある看護学校を他に移して、改めて病院施設を精査し、可分不可分の施設を整理して現敷地と新敷地と2ヶ所に分けて整備すれば良いと考えます。 そのような意見に対して具体的にお答え下さい。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

- 【注記】
- ・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
 - ・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との関係	ご意見
9	市民	移転候補地について 候補地について、消去法でいくとJR高田駅前になると結論づけられていますが納得がいきません。 まず、市役所跡地がもうすでに決定ということですが、病院よりスタバがなぜいつ頃から優先され決定されたのか詳しい説明を求めます。 次に、移転先のJR駅前についてですが本当に条件を満たしているのでしょうか？市長さんは駅に直結で便利と言われていますが、駅前に移転してどれだけの市民にメリットがあるのでしょうか。市長さんは現在の市立病院の現状をご存じなのでしょうか。朝の玄関前は事業所の送迎車がひっきりなしに入ってきます。身障者用の駐車スペースも狭く玄関前の通路は駐車されている車でいっぱいです。もちろん時間帯によっては立体駐車場にも列ができます。すなわちほとんどの利用者が車を使っているのが現状です。また、職員も車を利用しますので病院の周りにはたくさんの駐車場が確保されています。JR駅前には面積要件を満たしていると書かれていますが、このすべての駐車スペースも含まれているのでしょうか？ また、駅前の道路状況は考慮されているのでしょうか？近鉄駅前からのアクセスは朝の渋滞が予想されます。JR駅南側の踏切からのアクセスは今でも右左折しにくい場所だと思います。この状態で通院者の車や職員、業者の車が一齐に押し寄せても大丈夫なのでしょうか？ したがって、移転候補地の再考が必要と考えます。移転候補地がないのなら現在地を利用して建て替える案もありではないでしょうか。例えば、寮と看護学校、訪問看護ステーション等が入る建物を取り壊し、外来や施設棟を移転し、その後順次南館や本館を建て替えていく。その間の寮は民間の借家で代用し、看護学校は近く的美芸学園の校舎を借りるとかできるのではないのでしょうか。駐車場も計画的にうまく活用すれば現地での建て替えも十分可能だと思われます。 最後に、JR駅前に移転された場合、まだ建築新しい東館や南館をどう活用するのか。移転候補先の建物の解体費は構想に含まれているのかなど、税金を使う事業ならもっと市民に詳しく説明すべきです。このような状況でなぜ県との協定が発表されたのが理解できません。どうしても建物を市が引き取る必要があるならば、同じく老朽化が激しい公民館をここに移転し市民センターとして活用してはどうでしょうか。交通の便も良いし最高の立地と思います。
10	市民	予定地は交通量（渋滞）が多く交通の便が悪い。 市庁舎周辺の開発を望みます。
11	市民	今回の市立病院、新病院整備基本構想（案）について 色々な情報を得て考察する中で大きなウエートを占めるのは、言うまでもなく、それに伴う予算額が新たに移転して建てて行う金額と、従来の場所の建物を現状にそぐわないところを建て替える案を比較した額を、予想される金額を耳にしていますが、移転して新たに建てる方がかなりの金額が高いのが分かり、それも少しばかりの額ではないのがはつきりしています。 移転先の場所も考えてみた時に、将来場所的にも非常に交通の混雑状況や周りのマンションなども多くあり、病院をそこに移転となると適している場所とは思えない。一部の人たちのエゴでは絶対にあってはならない。あくまでも住民の将来を見据えて、予算の使い方をどのようにするかと考えた場合に、少ない金額を予算化して、今本当に生活に困窮している方たちが大勢住んでおられる事を考えたら、高い金で移転までして余分なお金を出すより、安い予算で出来る事を先ず考えて、余力のお金で、企業の誘致や又若者の発想力があり起業を助ける取り組みなど住民に反映出来る事にもっと頭を使って皆が考えるべきではないですか。高田市は商工や企業も衰退の一方で、病院を移転までし高額の予算まで考える発想が住民として余りにも将来の事を描いた考えではないと思わずにはいられません。 今の従来の場所で十分な場所であり将来のことも考慮しても環境や交通の将来のこと等何も、不足で困る事はないのではないのでしょうか 移転先を考えた時に地理的にも非常に道路の構成そのものが煩雑過ぎることは将来的には、今以上に駅に近いのも混雑が避けられない状況が予想されるので、現在の場所が最も最適に良いと、意見として思っています。
12	市民	結果報告みたいに具体的な話の方向性が決まってからの市民への報告も疑問だし、そもそも誰が話を進めたのか？ そして市立病院は駅前には必要ないと思います。今でも車通院の方が殆どではないのでしょうか？電車を使ってわざわざ来られるのでしょうか？県立医大があるのでそこまで税金を使って大きくする必要が高田にありますか？ 大きな税金をいとも簡単に話を具体化しすぎだと思います。どこに1番お金がおちるんですかね？
13	市民	第3施設整備 (2)(4) 人口の多い地域の整備反対。 格段に交通量増加する。 JR東広場が縮小される。これまでの景観が損なわれる。
14	市民	街の中心に市立病院移転は反対！今の市民にとっての一番良い環境を守ってほしい。
15	市民	子ども達の今の素晴らしい地域の環境を持続してもらいたい。 現在のJR踏切の混雑に加え市立病院が出来る事により通学路でもあるので子ども達にとっても危険が増します。マンションも多く交通量が増える事により大変危険な区域になります。
16	市民	今の環境が壊される。 反対です！！市民にとっての今の一番ベストな環境が壊れる！！JR踏切の危ない事と周辺道路の混雑、それに伴う危険度考えて下さい。
17	市民	29ページの移転候補地の検討について。産業会館、JR高田駅東口が最有力候補のように なっていますが、現市立病院で、約7割の患者さんが自動車で来院すると聞いています。この場所に移転するとなると、現在の近鉄大和高田駅前の交差点における動線を大きく変えないと、来院車をうまくコントロールできず、慢性的な大渋滞が発生すると思います。 御所市や葛城市など、市外からの患者さんの利便性ということでJR高田駅前という案が出てきたと思いますが、電車で訪れる人がどれだけいるか未知のところがありますし、なによりここにある「機能移転先等の確保が必要である」というのは、具体的に県施設の解体や用地取得費用がどれだけかかるかというのが明示されていないのが非常に問題だと思います。 街づくりの一環として病院のJR高田駅前移転を捉えているのだとしたら、それは絵に描いた餅になります。なぜなら職員駐車場の確保が困難と考えられ、今ある空き家が駐車場に転換されるだけだと危惧します。レジェイド大和高田（マンション）の東側用地が患者用駐車場になると聞いておりますが、7割が自動車来院ということを考えると立体駐車場になると思います。用地面積を考えると高層の立体駐車場になると思われ、レジェイド大和高田の日照に影響を与えることになり、該当する区分所有者の資産価値が下がります。 そもそも高田市民でJR高田駅や近鉄大和高田駅をどれだけの人が利用して来院するのか疑問です。市民だからこそ、車や自転車で来院するのではないのでしょうか。現病院の規模、総合病院であることを踏まえると、産業会館用地ではかなりの建ぺい率の高さになると思います。周辺の緑地帯の整備もままならず、都市部のつまらない病院と化してしまいます。公立病院としてこのような病院作りはおかしいです（私は●●病院勤務の医師です）。 前回も少し書きましたが、産業会館の取り壊し費用・用地取得費など、現時点で未確定の部分があります。レジェイド大和高田東側の用地取得も日本エスコンが値下げ交渉に難渋させ、逆に「ふっかけて」くる可能性があります。 税金で行う事業としてはハイリスクであり、JR東側への市立病院移転には明確に反対します。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.		当市との関係	ご意見
18	市民		大和高田市立病院の移転に反対し、現在の土地での補強・増築を求めます。 私は大和高田市民の一人として、市立病院の移転計画に関して懸念を抱いており、このパブリックコメントを通じて意見を述べさせていただきます。市立病院の移転に反対し、現在の土地での補強・増築を強く求める理由を以下に述べさせていただきます。 市立病院は私たち市民にとって重要な公共施設です。数十年にわたり、多くの市民がこの病院で医療サービスを受けてきました。その信頼と利便性は計り知れません。 市民にとって、市立病院は安心感と安全を提供する場所です。移転によって、この貴重な施設の地理的アクセス性が損なわれることは、市民の福祉に対する脅威となり得ます。 また、現在の土地での補強・増築工事による計画見直しを提案いたします。移転は膨大な費用を要し、新たな建物の建設や設備の整備に多くの時間がかかります。 一方、現在の土地での補強・増築工事により、迅速かつ効率的に施設の改善を図ることが可能です。地元の建築家や専門家の協力を得ながら、施設の拡張や近代化を行うことで、市民により良い医療環境を提供できると確信しております。 さらに、市立病院の移転計画は、地域の景観や自然環境にも深刻な影響を及ぼす可能性があります。新たな建物の建設に伴う騒音、交通渋滞、緑地帯の喪失など、地域全体にわたる悪影響が懸念されます。これらの問題を回避するためにも、既存の土地を有効活用することが重要です。地理的アクセス性を維持してください。市民にとって市立病院の地理的アクセス性は重要です。 移転によってその利便性が損なわれることは避けるべきです。慣れ親しんだ現在の場所での補強・増築を行うことで、市民にとって便利な場所での医療サービスの提供が可能となります。 このコメントを真摯に受け止めていただき、市民の声を反映させる決断をしていただけることを期待しております。 市立病院の改善と発展に対するご尽力に感謝申し上げます。 心よりお願い申し上げます。
19	市民		P.27～施設整備方針 について (2) 移転候補地 について 現在、最有力候補地として県地場産業会館およびJR高田駅東側の一部を挙げている事に対しては、大反対です。そもそも病院は病める人達が入院する場所です。まちづくりとして活気と賑わいを創出する事はとても大事ですし、是非そうあって欲しいと思います。 しかし、病院の立地条件としては、“いやし”の空間が絶対に大事です。周囲がマンション群であったり、駅のアナウンスが聞こえるよりも、小川のせせらぎであったり、小鳥のさえずりが聞こえる方が、より、人として生きている実感が有るのではないのでしょうか？ また、近隣のマンション住民の皆様もたえず救急車の音が聞こえる所で住みたいでしょうか？町中で救急車が走っている音を聞くと、気持ちが憂うつになりませんか？そこで候補地としては、高田高校を推します。可能であれば、大中公園の北側（NTT側）とも考えましたが、、、。 病院を利用される皆様は、交通手段として不便であれば「きぼう号」の便数を増便する等の工夫をしたら良いと思います。 市立病院は歴史の有る優秀な病院です。是非、職員のモチベーションが下がらない様にして頂きたいものです。 それと、市立病院を受診される皆様は、高田市民が約50%、それ以外の受診は、他の市町村民の方々です。他の市町村との連携等は不可能なののでしょうか？二次医療圏内での協力体制は無理でしょうか？
20	市民		資料が手元になく具体的には意見は書けません。5/21の住民説明会に参加した時に、ほとんどの方が（全員）反対の意見を述べられていました。住民説明会があることを知らない人が多く、内容を話していると“あんな狭い袋こうじの所になんで病院を作るのか？”とみんなびっくりして話をしています。次の住民説明会はいつ開催されるのですか？5月21日に約束されたように思います。 交通の便や災害時の時の事、敷地面積のこと、その他にも病院を建てる場所ではないと思います。高田市住民、周辺住民のことを考えてください。駅前病院としての利点としてマイナス点で高田市民は車か、自転車かぐらいの利用だとも思います。（バス利用） 私が患者なら今の市立病院のように景色が良くて、静かな場所で治療したいと思います。高田市が発展して住みやすい町になるように、市立病院の移転は全く考え方が間違っていると思います。私はこの高田市が終の住処です。もっと市民病院が市民により添った病院になって欲しいと思います。 どうか、JR東側の移転建設は白紙に戻してください。
21	市民		第一候補地であるJR高田駅の近くのマンションに住んでいます。 先日の市民説明会でのお話で、 1. 市内より市外からの病院利用者さんが多いこと。 2. JR高田駅を通過するバスが多いこと。 などの理由によりをJR高田駅前を候補地としたことは、理解できました。 ただ、近くに住む住民として、車が増えることにより信号のないT字路をどうするか。信号を付けるとか。今でも、夕方に近鉄大和高田駅付近で渋滞が起こることがあるが、どう対処するのか。サイレンの音をどうするか。たまに近くを救急車が走ることがあるが、とてもうるさい。現在の病院では、どう対処しているのか聞きたい。音がうるさい等の苦情があるのか知らないが。これらをどうしていくのか、教えていただきたい。
22	市民		移転候補地について 「奈良県産業会館・JR高田駅東側広場の一部」が最有力候補地なのは理解できますが、松塚の高田東高校跡地も検討していただけないでしょうか。現在高田東高校跡地は今後の有効利用も決まらずに野ざらし状態にあるようです。ぜひ有効活用してもらいたいのので、候補地の一つとして検討していただきたいと思います。もし面積が足りないのなら、周りはほとんど田畑なので買収は容易だと思われます。駅直結とはいきませんが、近鉄松塚駅にも近くて便利だと思うのですが。 なお、奈良県産業会館が候補地に選ばれた場合は、同会館の移転先に推薦していただけるとありがたいと思います。
23	市民		【34頁の予算の整備事業費に関して】 市の財政状況から現計画では大きな影響が生じる可能性を懸念。産業会館でも構わないが、新築するという発想から既設の建築物を最大限活かして活用するリフォーム設計も検討して欲しい。例えば、既設の建築物の外皮にUFCのような材料を使って躯体の強度を図り、内部を作り変えるなど、日進月歩で進化している材料や工法を使って予算の低減化を時間をかけて検討してはどうか。 現在は時代の大きな転換期であり、従来と同じ考えで実行するのは如何なものかと思う。
24	市民		地域に密着する地域医療支援病院であるのに、初診料が7000円かかってしまうことや、大和高田の貧困問題があるにもかかわらず、そこへの配慮がないことは、どうかと思います。 確かに利便性には富んでいると思いますが、周囲には住宅もありその所への配慮が出来ているのでしょうか。
25	市民		大和高田市立病院建て替え問題についてのパブリック・コメント 日頃の地域医療に対する貴院の貢献に改めて敬意を表します。その上で、今回の病院建て替え問題についての貴院のパブリック・コメント募集の呼びかけに応えて、以下、私の意見を表明します。 昨年12月の堀内市長の表明を聞き、その荒唐無稽な内容に、私は驚き、呆れ返りました。そして、今、改めて怒りが湧いてきているところです。案の定、5月21日に開催された市民説明会では、多くの市民から疑問や反対意見が噴出し、積極的な賛成表明は全くないという状況となりました。 また、6月16日に開会した市議会は冒頭から紛糾する事態となり、市当局が提案したJR高田駅周辺の調査費に関わる予算案件について、複数の市議から反対意見が表明され、今後の論議の行方と最終的な裁決が注目されます。こうした状況のもとで、私は、貴院が中心となってまとめられた「大和高田市立病院 新病院整備基本構想書（案）」（以下、「基本構想案」と略す）の問題点を指摘するとともに、移転案の即時撤回と、議論を「現地立て替え」を基本とする本来の正しい軌道に戻すことを要求して、以下の6点にわたって私見を述べたいと思います。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

No.	当市との関係	ご意見
No. 25 意見の続き		1、何故、病院の将来像が「現地建て替え」を排除する根拠となるのか。 基本構想案の「はじめに」の部分には、「当院が目指す“いざという時に頼れる 市民に愛される病院へ ”の将来像を示し、合わせて事業の工期やコスト面において、「新築移転が望ましい」との結論となった」（4ページ）とあります。そして、目指すべき将来像を「高度急性期・急性期（重症）患者を今後も安定して受け入れ続けるためには周辺地域の病院との役割分担・連携を考慮しつつ、当院の医療環境を整備する必要がある」（11ページ）とし、さらに注記として、「断らない病院」、「面倒見のいい病院」の具体的な内容が記述されています。（地域医療構想より、11ページ） こうした将来像として掲げられている目標そのものは、中和医療圏の中核的な拠点病院である貴院に課せられた当然の役割であり、何ら目新しいものではありません。今までも、貴院に勤務する医師、看護師、事務職など様々な職種に従事する方々が、当然のこととして、市民の願いに応え、その将来像の実現にむかって日夜奮闘し、努力されてきたものではありませんか。 何を今更という感じがしますが、ここで問題なのは、こうした将来像を掲げることが、何故、現地建て替え方針を排除する理由になるのかということです。全く理解に苦しむところです。市立病院の敷地は約25000平米あり、この病院の全ての機能をJR高田駅前の県産業会館の跡地・約11000平米、現在の敷地面積の半分にも満たない狭小な土地に封じ込めようとするのが新築移転案です。 高齢化社会を迎え、さらに感染症や自然災害の続発によって、複雑化し増大化する地域の医療需要に応じて、高度な医療提供体制を構築するために、現在の敷地面積では狭小であるので、より広い土地を確保したいとの主張であれば理解できますが、実際はその逆ではありませんか。病院跡地の利用計画も決定していない状況で、過去から現在に至るまで、長らく大和高田市民の支えによって、営々と存続し、発展してきた県下に誇る市立病院を一気に取り潰すことは決して許されるものではありません。これでは新築移転という結論が先にあって、あれこれの理屈を付けていると言われても仕方ありません。
No. 25 意見の続き		2、狭小な病院敷地で新たな感染症や巨大な自然災害に対応できるのか。 1に述べた論点についてさらに補足します。 基本構想案の6ページに「第8次医療計画」（2024年度～2029年度）の策定に関わって「近年の新型コロナウイルスの流行を起因として、新興感染症拡大時の医療の確保に向けた取り組みについて記載される見込みである」と記されています。ここでは今後予想される南海トラフ地震などの巨大な自然災害については触れていませんが、コロナ・パンデミックにおいて私たちが経験したことを踏まえて、今後の医療体制の充実を図る方向性が示されています。実際、コロナが猛威を振っていた時には、医療従事者は最前線に立つことを余儀なくされましたが、一方で、各地の病院では院内感染が多発した状況を受けて、多くの健康な市民にとっては、病院は出来れば近づきたくない存在となり、持病を抱えて日常的に通院する人々も病院に行くことを躊躇したり、場合によっては通院を諦めるといった事態が生まれました。しかし、こうした人々の行動はある意味当然のことで、感染症が人と人の接触によって拡大し、感染拡大を抑制する方法は「感染者の隔離」の徹底にあり、あらゆる場面で「ソーシャル・ディスタンス」を取ることが求められてきたことから明らかです。従って、今後、新興感染症の続発が予想される時代を迎え、私たちが直面した人類史的なコロナ・パンデミックの経験からして、病院を大勢の人々が集まる「賑わいの街づくり」の手段にするなどといった、病院の本来的な役割を忘却した「迷妄の極み」ともいうべき発想は、もっての外だと言わねばなりません。 釈迦に説法ですが、21世紀に入って、SARS、MERS、新型インフルエンザ、そして、新型コロナなどの新興感染症が次々と登場し、今後さらに深刻な被害を齎す恐ろしい感染症が発生すること十分に予想されます。またさらに、南海トラフ地震や大洪水の被害が地域社会を蔽った時、「命の最後の砦」である病院はどのような事態を迎えるのか、恐らくは多数の負傷者が次々と押し寄せ、野戦病院の如き様相を呈することになるでしょう。 感染症だけではなく、こうした自然災害による緊急事態にも対処することが強く要請されています。そうした観点から、病院の立地は、繁華な地域とは離れた静かな環境が最適であり、敷地については、あらゆる状況への対処が可能なように、拡張性を備えた土地、即ち、柔軟な医療活動が展開できる余裕を持ったものであることが必須です。周りを高層マンション群に囲まれたJR高田駅前周辺の狭小な土地が、現在の市立病院の立地と比較してベターなどということは絶対にあり得ません。医学の門外漢である一市民が、このような分かり切ったことを地域医療の専門家に訴えねばならないというのは情けない限りです。「混沌の森」に迷い込んだ基本構想案の撤回を求め、直ちに、従来通りの西館（旧館）の建て替え方針に復帰し、新たな時代に相応しい病棟建設に向けて、早急に具体的な検討に入ってください。
No. 25 意見の続き		3、「現地建て替え」は本当に工事期間中の病床削減を必然とするのか。 市民説明会における当局の説明は、病棟の建設工事中の病床削減を自明の前提として損失計算を行い、早々に負担が大きいと「現地建て替え方針」を放棄して新築移転案を採用し、現行の病床数320床の維持を原則に移転候補地の選定を行ったとしています。そして、実際に、基本構想案の28～32ページにかけては「整備予定地の選定経緯」として、その詳細が掲載されています。こうした市、病院当局の態度は全くアンフェアだと言わねばなりません。何故なら、西館（旧館）建て替えに関連する資料の全体像が市民の前に明らかにされていないからです。西館（旧館）、東館（新館）、放射線棟がいつ建設されたのか、その鉄筋コンクリートの建造物としての耐用年数はどのくらいか、そして、決定的なのは西館（旧館）と同時期に建てられた、放射線棟の南にある看護学校はどうするのか、といったことが何ら明らかにされていないからです。 やや不確かですが、私の記憶では、各病棟の建設年代は、西館（旧館）は1970年頃→築50年を超え、既に耐用年数は過ぎて早急な建て替えが必要、東館（新館）は2000年頃→耐用年数の半分も経過しておらず、これを潰すことは税金の無駄遣いと言われても仕方がない、放射線棟は2015年頃→まだまだ新しく、これを潰すとは市民の血税を何と心得ているのかと厳しい批判を受けるレベル、ということです。 このように現在の市立病院は大きく分類して3つの建設時期が異なる建物群によって構成されています。そうであるならば、従前から市が順次の建て替えを想定していた筈で、そのプランが存在するに違いありません。それを市民の前に明らかにすることが議論の出発点です。そうした状況のもとで、建設工事中は病床削減を余儀なくされるというのは本当なのか、大いに疑問です。実際に病院の現地建て替えは多くのところで行われています。私が奈良県の担当課に確かめたところでは、現在、移転工事中の奈良県立医大付属病院では、主要な病棟の建て替えが喫緊の課題となっていますが、992ある病床を削減して工事を行うことはあり得ず、建て込んだ敷地をやり繰りして建設する予定で、鋭意建設プランを作成中ということでした。 また、市内の土庫病院も病床を削減することなく現地建て替えを行ったと聞いています。説明会当日に配布された資料からは、世論を新築移転に誘導しようとする意図がありありと感じ取られ、市民に誤解を与えるものとなっています。 市立病院をめぐる問題の核心は、単純に老朽化した西館（旧館）を如何に早く建て替えるかであって、建て替え費用そのものは多少高くつくかも知れませんが、新築移転案のように、耐用年数が来ていない病棟を潰したり、県産業会館を買い取ったりと、様々な不採算や不確定要素が絡んで、結局は大きな税金の無駄遣いに繋がっていくことは必至です。現地建て替えでは、建物配置を全面的に変更するなどの困難に直面するでしょうが、優れた建築の専門家に任せれば、新築移転案では高層化を容認しているのですから、駐車場を含めて広い敷地を持つ市立病院を病床削減せずに建て替えることは十分可能です。 長年にわたって市民の信頼を得てきた市立病院が、新たな時代のニーズに応じて高度な医療体制の構築をめざすのであれば、多少の財政負担や工事期間中の不便があったとしても、市民の温かい理解と大方の支持を得ることが出来るのは間違いないことでしょう。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.		当市との関係	ご意見
No. 25		意見の続き	4、「駅直結型の病院を街の賑わいを取り戻す起爆剤に」という主張は病院の本来のあり方から見て説得力を持つのか。 縷々述べてきたことから「駅直結型の病院を街の賑わいを取り戻す起爆剤に」という市長を始めとする市当局の主張の誤りは最早明確でしょう。病院はショッピングモールや娯楽施設ではないのです。入院、通院に限らず病院にお世話になる患者にとっては、静かな環境のもとで一日も早い病気の治癒を願うものであり、健康な人にとって病院は決して自ら進んで行きたい所ではありません。市民説明会で、市立病院に勤務する約1500人の職員が、日常的に出勤・退勤を繰り返すことによって、JR高田駅周辺の人流をつくり出すことができるのと当局の説明に参加者はあきれ返り、思わず会場から失笑が漏れたのは蓋し当然のことと言えるでしょう。 市長始め市当局が唱える「駅直結型病院の建設」という宣伝文句が如何に荒唐無稽なものであり、全国広しと雖も、このような言説に固執する行政当局も珍しいと言わざるを得ません。人口減少が激しく、既に市内の4分1が空き家となった現状のもとで、この町の「街づくり」をこの人達に任せておいて大丈夫かとの声が聞こえてきそうです。 では何故、市立病院の建て替えをめぐって、このような奇想天外な新築移転案が市の行政に大手を振って登場してきたのでしょうか。そこには、昨今の地方行政をめぐる根深い問題点が横たわっているように感じます。 一つは、地域住民の声に耳を傾け、多様な意見を闘わせながら「熟議」によって物事を決定する民主主義的な手法を放棄して、首長のリーダーシップのもとに「上意下達」でスピード感をもって決定することを「良し」とする社会的な風潮です。 もう一つは、新築移転案の背景をなす新自由主義的な都市計画思想としての「コンパクト・シティー（compact city）論」です。後者については⑥で触れますが、前者について、人口減少によって衰退が目立つ市の現状に市長が焦るのは理解できますが、そこは市民の声をよく聴き、一度立ち止まって考えて直して欲しいと思います。市長の市議会における新築移転案の突然の発表、あたかも決定済であるかのようなメディアでの市長発言、そして、最後に「市民説明会」で、アリバイ的に市民の意見を聴いたかのように振る舞う、この一連の過程の中に地方行政をめぐる今日的な問題点が典型的な形で凝縮されています。 さて、私は市民説明会に出席して、市民から出された様々な意見に「なるほど」と感心することが何度もありました。ここまで医療提供の側、地方行政の側からの視点で新築移転案を批判してきましたが、地域住民からは、以下のような、患者、生活者の目線に立った貴重な意見が多数寄せられています。是非、これらの意見を真剣に受け止め、重大な欠陥を持つ新築移転案を撤回して、市民のニーズに応えた新しい病院づくりに邁進して欲しいと切に願うところです。 以下に市民説明会で出た住民の主な意見を私なりにまとめてみました。
No. 25		意見の続き	①県産業会館跡地は高層マンション群に囲まれており、昼夜を問わず、救急車が進入してくることになれば、住民の生活に重大な支障をきたす。 ②JR高田駅東側地域は、道路交通網上の袋小路になっており、多数の外来患者がマイカーで押し寄せれば周辺で交通渋滞を引き起こすことは必至。特に、朝夕の通勤ラッシュ時の中央道路、JR高田駅南側の踏切付近が心配。 ③JR高田駅西側の市営駐車場を病院専用駐車場とし、駅構内を通る2階通路を通して病院に繋ぐとしているが、患者や障害者のためには玄関口で下車できるように整備するのが基本。病院の玄関口と駐車場が離れ過ぎている。 ④JR高田駅前広場は従来から市民の交流の場として様々なイベントが開催されてきた。そうした機会を奪ってしまうのか。 ⑤県産業会館には多くの団体が入り、また、会館の会議室・ホールは、市民が主催する講演会や映画会などのイベント会場となっている。それらの代替をどのように保障するのか。県産業会館を潰して建て替えるのか。 以上、何れも貴重な意見であり、新築移転案には致命的な難点があります。
No. 25		意見の続き	5、恣意的な内容に終始した説明資料で本当に市民の理解が得られるのか。 市民説明会で配布された資料は、世論を新築移転案に誘導する大変不誠実なものでした。その問題点を箇条書きにして指摘して置きます。 ①市立病院の病棟や施設についての詳しい情報が殆ど記されておらず、また、以前に存在した筈の「現地建て替え案」も開示されていないことで、議論の前提となる資料が完全に欠落している。 ②市民説明会で、何故、旧市役所跡地が候補地から除外されたのかという疑問が出されていた。 資料では「跡地活用決定済」として、当初より検討対象から外されていることへの参加者の不満が表明されたということである。市役所移転後の「街づくり」の最大の課題が市立病院の移転であった筈で、15年契約で「スター・ボックス」を入れるという意味不明な措置はこの跡地への市立病院の移転を妨害するために採られたのではないかとの疑念を引き起こしている。その点についての明確な説明は為されていない。 但し、私は、市役所跡地が県産業会館跡地への移転案よりもさらに狭小な土地への移転となることから反対である。 ③候補地の一つに県立高田高校を挙げているのは、県、及び、高田高校に関係する全ての教職員・生徒・父母・卒業生に對して失礼であり、全くもって市当局の態度は傲慢そのものと言わねばならない。 確かに高田高校の校地は約30000平米もあって市立病院よりもさらに広いが、創立100年を誇り、毎日この校舎で大勢の高校生たちが学び、つい最近、耐震補強工事を終えたばかりの高田高校を潰して、どこに持っていこうと言うのか。実現可能性ゼロの候補地案である。冗談はいい加減にした方がいい。
No. 25		意見の続き	6、新築移転案の根底にある「コンパクト・シティー（compact city）論」批判 「駅前直結の病院建設」という奇抜なアイディアがどこから出てきたのか。 私は、今はやりの「コンパクト・シティー論」が背景にあると推測しています。市民説明会のアンケートで、この議論に触れた賛成意見が一通あり、また、市議会において当局の「街づくり」担当の責任者から、これに沿った答弁があったからです。 一般に「コンパクト・シティー」とは、少子高齢化社会の到来を受けて、国土交通省を中心に政府が地方自治体に推奨している都市政策で、「都市的土地利用の郊外への拡大を抑制すると同時に、中心市街地の活性化を図り、生活に必要な諸機能が近接した地域に配置された効率的で持続可能な都市をめざす政策」と定義されています。 しかし、この議論を市立病院の移転問題に適用するのは全くの的外れです。そもそも本市は東西、南北、それぞれ5～6キロの範囲に約64000人が暮めき合って生活する、県下で最も人口密度の高いコンパクトな都市です。従って、市内のどこからでも10分程度で患者を市立病院へ救急搬送することが可能でしょう。また、何でも都市の中心部に集中すればよいというものではありません。子どもが通う小学校、災害時の避難所などは地域住民に近いほど良いのであって、寧ろ分散して配置すべきです。こうした観点から、病院には最適な立地というものがあり、町の中心部である必要はありません。その意味で、新築移転案は、その背景にある都市政策からも誤った議論であり、愚策であると言えます。 病院は誰もがお世話にならねばならない大切な施設です。私たちの父母の世代から支えてきた市立病院の将来については、市民の声に耳を傾け、慎重な議論を重ねて、誰もが納得できる最良の結論を出してください。お願いします。 ＊コメントは市立病院が発表している基本構想案を批判する形で執筆しているので、病院及び市当局の双方の関係部署で一読してください。よろしくお願いします。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和５年６月５日～令和５年６月２５日）

- 【注記】
- ・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
 - ・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との関係	ご意見
26	市内在勤者	まず長年の懸案でした市立病院西館（本館）の耐震問題の解決のための建て替えは必要と思います。その上に立って意見を述べます。 ①大和高田市民のかかりやすさの点です。 1. 「第３施設等の整備方針」に関連して 交通のアクセスです。移転先として駅前を選択しているが、妥当な案でしょうか？駅前の利便性をあげていますが、市民の人流や移動手段の実情を把握しているでしょうか？高齢者も多く、公共交通機関で市内をカバーできていないように思います。駅前の利点は、駅を利用して通勤・通学する市民や大和高田市以外の近隣の大阪沿線の人にとっては利便性あっても、これから増加する高齢者の利便性にはならないと思います。また、周辺にはマンションが複数建っており、道路事情も渋滞しやすく、救急車の出入りと市民の車移動には支障をきたすと思います。さらに、これも以前から問題になっている 近鉄、JRのアンダーパスは大雨で通行不可になることが多く、高田市は近鉄大阪線で南北に分断されます。災害時など救急受入が問題なく できるのか疑問です。 2. 「第２新病院整備の基本的な考え方」に関連して 今回の基本構想案では書かれていませんが、先日の市民説明会の資料Bでは個室のところで「差額室料病室は総病床数の３割を目標」とあります。320床の内、約100床が対象となります。差額室料病室の運営規定は明らかではありませんが、明らかに病状でなく、経済的格差で受けられる療養環境が異なることとなります。むしろ市立病院が率先して、無料低額診療事業などかかりやすさの追求が必要ではないでしょうか？ 「１目指す姿と基本的な方向性」では「（１）新病院が目指す姿 いざという時に頼れる 市民に愛される病院 すべての患者に適正なトリアージ（適正な医療サービスへの調整）ができる病院」とあります。いざという時とは急病の時はもちろん、経済的に困窮していても、災害などのときでもだと考えます。その点では問題があると考えます。 ②医療機能と費用負担について 1. 「第２新病院整備の基本的な考え方」に関連して 「２医療機能」での取り組み方針は地域での必要とされているものと同意できます。しかし、地域医療支援病院を目指すとなると、地域医療構想から考えれば、中和西部（葛城地区）の中核病院の位置づけとなり、建設や運営が大和高田市市民の負担というのは整合性がないと思います。また新築移転に伴う費用では、現在の病院の解体費用や土地の取り扱い費用は含まれておらず本当に概算費用としても候補地としてベターなのか疑問です。さらに建設後の運営にかかわる経営計画が明らかでなく、市民の負担が明確になっていません。 すべてではないですが、現状では、新築移転のこの計画は市民の議論を深める必要のあるもので、このままでは賛成しかねます。 だれでも安心して住み続けられる大和高田市の姿について、市民参加、専門家、関連事業者も参加したフォーラムなどが必要ではないでしょうか？
27	市民	まず、現病院の老朽化による建て替えについては賛成です。 ただし、移転先については反対です。駅周辺に施設を集めて利便性を上げ街の活性化の意図もあるかと思いますが、現在の駅周辺が賑わいがあると判断されてますか？商業施設は隣接市町と比べて閑散状態ではないでしょうか？そこに病院を持って来て賑わいますか？全くリンクしないと思います。 また、公立病院で市民に愛される…とありますが、市民は電車を使いますか？特に今後増える高齢者は。他市町村をターゲットにするなら公立病院の看板下ろされては？と思います。誰のための何のための新築移転、市立病院でしょうか？ 電車ではなく車で病院行く場合、南北の道路が今でも渋滞しているのに、加えて渋滞するのは必至です。そこに救急車ですよ。隣接のマンションの方々の意見は反映されますか？ 一市民としてかかりやすい病院になると思えません。費用は市民負担に跳ね返りませんか？人口減少していくのを防ぐために、例えば、こどもへの政策や道路の整備、巡回バス増加、商業施設誘致などにお金をかけてほしいです。 大和高田市がもっと住みやすい街になるようにまちづくりをしてくださることを期待しています。
28	利害関係者	●病院の環境について 私は消化器外科医として●●病院で16年就労、●●病院で35年就労しています。多くの患者さんを外来診察し、入院・手術してきました。 二つの病院の療養環境の素晴らしさは入院中に大和三山が、金剛葛城山系が、二上山が望めることです。入院された多くの患者さんから辛い治療の中も素晴らしい景観を眺めながら入院・加療出来たことで癒され喜びを感じたとの感想を頂いています。新しい病院はJR駅の横、高層住宅街に囲まれてまず患者さんが望む景観は全く見ることが出来ないのではないのでしょうか。療養環境としては最悪です。 ●人口密集地に病院を建てることの見識 「街の活性化を目指す」計画？馬鹿げていますね。通院の交通手段は患者も職員も主に自動車です。今以上に街に混雑と交通渋滞をもたらします。そこへ救急車の集中も。交通渋滞で救急搬送困難事例の発生も危惧されます。また病院職員、患者・家族の駐車場確保も困難です。周囲の居住者はこれまでにない救急車の音を24時間耳にします。救急車の音は日常生活者にとっては心に大きなストレスを感じます。 ●”地域医療連携強化”？ JR、近鉄大和高田駅周辺は既に多くの医療機関が集中しています。そんな地域に新しい病院を建てれば長い間、地域医療を担ってきた医療機関同士が競合し、連携どころか、閉院すら生じかねないです。”開業医殺し”の移転計画は断じて許されない。 ●移転に伴う既施設はどうなるのか 既施設の移転は市民・県民要求の無視。 移転予定地には「奈良県産業会館」があり、産業や文化の発信基地として素晴らしい機能を発揮しています。色々な会議、研究会、サークル活動、展示会、コンサート、演劇などなど。市民、県民にとってなくてはならない施設となっています。この施設をどこへ移すのでしょうか。この施設を移転してここに病院を建てる発想は市民、県民の怒りとなってきています。 ●新しい病院に望むこと 風光明媚な大和の地にある病院としての良さは患者の療養環境の素晴らしさです。患者さんから「住み慣れた山や田畑を見ながら死にたい」との声を多く耳にしてきました。ゆったりとした広い敷地に住む人々の生活環境を壊さず、交通渋滞のない場所に、駐車場もしっかり確保できる場所に建てる。 これから少なくとも半世紀先の医療・介護の発展を見据えてゆとりのある施設を確保し、すべての職員が働きやすい環境を確保する。 ●「新病院構想」 市が進めている「新病院構想」は全く市民要求から離れ、働く職員の就労環境への配慮も欠き、全く話にならないです。市民の、地域住民の、働く職員の願いに沿い、地域医療機関との益々の連携強化を目指す新病院の建設を心から期待しています。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.		当市との関係	ご意見
29	市内在勤者		大和高田市立病院の新築移転について、私の意見 大和高田市立病院の建て替えについては、耐震基準を満たしていないとして、かねてから問題とされてきたところです。公的病院が災害時、特に今後予測されている東南海地震において、拠点病院としての機能を果たすためには一刻も早い建替が必要だと思いますので、私自身建替には反対ではありません。 また病院機能としても、築後かなりの年月を過ぎた建物の中で、新たな医療技術を取り入れたり、患者の医療要求に応えることは難しいと考えますし、拠点病院としての機能も、近隣の医療機関などから期待されているところだと思いますので、医療整備上も建替が必要だと思います。 ただし多くの方が反対されていると聞いていますし、私自身も今回市長さんが示された「新築移転案」については意見をもっていますので、このパブリックコメントで私の考えをお伝えしたいと思います。 説明会などで示されている資料を見ますと、施設整備の基本的な考え方、については異論ありません。ただし、整備方式、予定地の検討、費用については検討された結果が不明瞭だと思いますし、様々な問題がはらんでいるのではないかと思います。 まず整備方式の検討ですが、現地建て替えか新築移転かという問題ですが、新築移転の方が工期、診療への影響、コストの面で有利であるとのこととなっています。工期、診療への影響については理解できます。しかしコスト面で本当に新築移転が有利なのでしょう。 建設予定地をJR高田駅と産業会館とされています。整備に必要な費用のうち、産業会館の県からの買収に係る費用、解体、そして現在産業会館にテナントが入っていますが、それらの方々の補償などは費用に盛り込まれていないといえます。それらを含め、本当にコスト面で有利なのですか。県との話し合いや、おそらく書面の取り交わしなどがされているかと思いますが、それを明らかにしたうえで、再検討されるべきであると思います。 また荒井知事から山下知事になって、先日、予算の見直しがされているかと思いますが、その辺も気になります。荒井知事とどのような約束をされていたのですか？山下知事になってすぐに破綻するような話だったのでしょうか。
		No. 29 意見の続き	次に建設予定地になっているJR高田駅、産業会館の部分ですが、ここに移転することで、まちづくりになると聞いています。大和高田市がめざすまちづくり、とはいったいどのようなものなのでしょう。病院を建設してまちづくりにつながりますか？いま近鉄高田駅とJR高田駅の行き来と病院ができてからの行き来では、病院に行く人しか通りません。ほとんど変わらないと思います。トナリエだけがその恩恵を被ることができるだけです。 本来のまちづくりは、たとえばいまある商店街がほんとうにさみしい状況になっているのをどうしていくのか、活気あるまちづくりの側面と、みんなが安心して暮らすことのできるまちづくりや、住む人目線でのまちづくりではないのでしょうか。病院を建設するだけではまちづくりにはつながらないと思います。 また、予定地ですが、産業会館の部分も使用するのであれば、マンションのすぐ横に病院がくることになります。周辺はマンションも多く、救急車が入ると夜間などはうるさくなります。その辺の住民の理解は得ているのでしょうか。 また近鉄線、JR線のアンダーパスは少し強い雨が降ると冠水してしまいます。すると救急車が通れなくなります。もし予定地に建設されるのであれば、この問題は建設までに早急に解決し、市民を安心させるべきです。 また建設についてですが、建設のコストについては不明確な面もありますが、明らかにされています。しかし建設してからの見通しについては明らかではありません。どの程度の借金があり、どのように運営されていくのか、財務計画が明らかではありません。 先日市役所をリニューアルされたばかりですし、大和高田市の財務状況は余裕があるとは思えません。建設後の財務計画について明らかにしてください。
	No. 29 意見の続き		医療面のことになりますが、「地域支援病院」になられると聞いています。そうなれば紹介状がなければ基本的に受診できない病院になりますし、大和高田市ばかりでなく、隣接する自治体の患者も対象となり、大和高田市が市民だけでなく広範囲の自治体の患者の責任ももたなくてはならなくなります。その面でも運営費を大和高田市だけがもつのか、近隣の自治体にも協力をえるのか、どうなのでしょう。 また、地域支援病院になれば、紹介状がなければ受診できない病院となり、大和高田市民においては確実に今よりかかりにくい病院になります。その辺は大和高田市としてどのようにお考えなのでしょう。公的病院として、社会的弱者の医療にどう責任をもつのか、そのへんはどのようにお考えでしょう。 また室料差額ベッドについては320床の3割、96床、しかも個室でなく4床室をとありますが、4床室は基本的に標準だと思います。そこから室料差額をとるのはいかがかと思います。また現在、大和高田市民からは室料差額をとっていない、と聞いていますが、新病院でもそれは継続されるのでしょうか。また室料差額は、治療で隔離や療養上医師が必要とした場合は室料差額を取ってはいけないことになっていますが、それはどのように運営されるのでしょうか。 また、公的病院として社会的弱者の医療を受ける権利を大和高田市としてはどのように保障されるお考えでしょう。無料低額診療制度を運用されるべきだと思います。 私の考えは以上です。 様々な視点で、大和高田市市民が受診しやすい、安心して大和高田市でくらししていけるための市立病院の整備であってほしいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。
		30 市民	土地の利点は手間をもっても代えがたいものがあります。 現地での再建について広く知恵を出し合う機会を設けていただきたいです。 老朽化、狭隘化に対して、また、人口構造の変化や政府の医療提供再編計画に対応して再建が迫られている状況には共感します。将来構想について、ニーズを吟味され役割を明確にしていることについて十分な検討がされたと受け止めています。 しかしながら、老朽化、狭隘化、人口構造の変化はかねてから予想して対応できる課題であって、急いで6年後の2029年の新築移転として無理をかけることに問題があります。急がれる課題ではありながら、必ず2029年の6月を目標設定にしないといけない根拠はないと受け止めています。 急がれること、市の面積が広いわけではなく移設とした場合の選択肢が狭いことからどこかに無理のかかる対応となることが避けられないと考えています。そのうえで病院としての利便性、職員の負荷、建築にかかる期間はかかると思いますが、高田市立病院が新しい機能で現地に作られる未来に期待があります。 現地建て替えとした場合の人的負担、利便性の担保をするための対策を検討したうえでも、新築とせざるを得ない判断が議論された経過について再び明らかにして頂き、市民総出で知恵を絞り理解と協力を得ていくプロセスの再構築を求めます。
		No. 30 意見の続き	理由 1、 市民的課題について、市民との協議をあと送りにして公有地前提で候補選択を迫っていること。市民との議論が後付けになっているので今からの対応では市民の意見を聞いて回答するだけで具体的な対処は調整範囲となります。 新築予定地を消去法的に定めた状態での議論は、取り返しのつかない強引な決定を追認させるパブリックコメントであると受け止めます。 市長としての権限がこのように使われることについて、市民として残念な気持ちです。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和５年６月５日～令和５年６月２５日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との 関係	ご意見
	No. 30 意見の続き	理由 2、葛城市、御所市、高取町、広陵町、香芝市から自動車でのアクセスを考慮するときに現地の利点は代えがたく便利です。 公共交通で見ても近鉄南大阪線沿線では他に代替のない県内の総合病院です。 高田市駅周辺の賑わいの構成要素として医療従事者、学生の実生活圏、通学圏の形成に大きく寄与していると考えます。吉野、南大阪地域からの流入人口にも関わっていると思います。 高田市内の賑わいを考えれば、高田市駅、JR高田駅、大和高田駅を軸にした密集した商圏・生活圏は県内一の人口密度にかかわっており、橿原市、広陵町、香芝市等で自立した生活者が主軸となる近隣の大型ショッピングモールや幹線道路の沿線型商圏、広域の開発住宅地が展開される様子と対局にあります。 移動手段と人材確保をすることで、車の運転ができない、視聴覚が不自由などの状況を抱えている方に対し、手助けにより外出できる、買い物ができる、医療機関にかかれる市域形成が図れる可能性をもっています。 現在、人口の流入元になる地域の違いで街区は分散並立しています。市立病院を大和高田駅、JR高田駅の街区に持ち込むことで、一極化に近づけて狭くすることは損失です。
	No. 30 意見の続き	理由 3、JR高田駅前は大中公園、馬冷池公園、と並ぶ地域交流に開かれた広場機能を持ちます。 また、屋内で集合できる施設の奈良県産業会館が隣接していることは他との比較にならない地域資源です。 駅前立地で多人数の集会、会議施設があるのは貴重であり、中和地域に比較できるものは奈良県社会福祉総合センター以外にありません。昼間人口の流入に欠いてはいけない施設です。 この機能を削って、病院を新築することは大和高田駅周辺の昼間人口を維持することができたとしても、高田市駅周辺の昼間人口を減らすことになります。
	No. 30 意見の続き	理由 4、交通インフラへの過剰負荷 JR高田駅前への移転は、大和高田駅・JR高田駅周辺へ局地的な一か所に交通集中を生むことになり、道路混雑は避けられません。 公共交通への誘導策を準備した場合でも、単線のJR線には運行密度に限界があります。JR高田駅だけバリアフリー化をすすめても、JR沿線の各駅に不便があれば活用程度は上昇しません。2次医療圏を想定した際に、圏域の駅と連動させた整備が重要になります。それでもなお、JR新庄駅、JR御所駅周辺を利用できる人口がJR高田駅を利用する対象人口は限られています。 超高齢社会の様子として、 自宅から駅まで介護タクシー → 駅員の力を借りての上下車 → 駅から自力で新築の市立病院 という利便性のシナリオは描けません。今すでにそうですが、自宅から病院まで直接介護タクシーを利用されます。本人をささえる複数の人、乗降リフトをつかった上下車に病院前のロータリーがごった返す現状です。 開業医からの紹介受診、大量のおむつを持参して外来受診を経ての予定入院。救急車や介護タクシー、家族介助を受けて急性期病院から地域包括ケア病床への転院。救急受け入れ2700台を想定したうえで3000台への目標設定。想像するだけでも7～8台程度の広い乗降場所、2～3台のスルー型救急車受け入れゾーンを確保する必要イメージがあります。 これを考えると、現状で設置面積としての要件はJR駅前がこれをかなえながらも、まだまだ不足する懸念や、自動車でのアクセスが滞らないための道路整備が必要で、これこそ私有地交渉を多く抱える課題と考えます。
	No. 30意見の 続き	理由 5、ヘリポート建設の適地判断について ヘリポート建設も必要とされており、高度急性期を奈良医大と2極分散させるねらいには応えられる設備想定だと考えますが、高層マンションの立地する中心にヘリポートが生まれることになり、進入路や降下角の制約を大きく受ける不便で危険なヘリポートになると考えます。 ヘリポートの利用が毎時的に発生しないとは思いますが、1回1回の運用に高い安全性が担保されるべきです。この場合も、南西に扇状の空域がひらけている現地立地であるほうが制約が小さいと考えます。 すでに居住している方々にとってもヘリコプターの音は道路、鉄道とは別物の大きさになり、特段の説明と理解、対策が必要になり、経費も検討に含まれるべきです。
	No. 30 意見の続き	理由 6、持続可能な医療提供体制の確立（p.16ほか）に関して① 現在働いている労働者が引き続き働きつづけられることは重要です。事業所の最寄り駅が別路線となることは、この障壁になり得ます。これまで電車通勤できていた職員は自動車通勤を余儀なくされると思います。 現在でも、大和高田駅、高田市駅の周辺は通勤時渋滞しますが、分散されています。市立病院がJR高田駅前にくことは、増加した自動車通勤者をこの混雑に巻き込んで一極化させることになります。 職員駐車場の整備も必要台数の想定と確保について十分に計画されているようには見られず、人的資源が離れる懸念をもちます。
	No. 30 意見の続き	理由 7、持続可能な医療提供体制の確立（p.16ほか）に関して② 看護学校の移転計画があがっていません。 病院に隣接した看護学校の良さは講師の確保、実習の利便性があり、若年人口が減る将来にあっても人材確保に優位点をもち続けられると思います。 用地取得の必要面積がさらに広がることになりませんが、だからこそ、現地での建て替えに知恵が絞られるべきと考えます。
31	市内在勤者	P19（1）新病院が目指す姿として「いざという時に頼れる 市民に愛される病院」とあり、P25ではウの外来についての記載で「地域医療支援病院を目指す中で、紹介患者を中心に受け入れることとなる」とある。地域医療支援病院ということは紹介状が無い場合は患者さんの払う負担が増えるということであり、そういう病院になるということが市民にしっかりと説明されているのか疑問である。「愛される」病院とも反することになるのではないかと。 P34の6整備事業費では、「既存病院の建物解体および土地の取り扱いに係る費用は含まない」とあるが、そうした費用も含めての事業ではないのか。それら費用の額や明細を明示して市民に説明すべきであると考えます。またこの事業により市民の税負担等がどうなるのかも説明すべきではないかと。
32	市民	駅前への病院建設は非常に立地条件が厳しいと考える。（市民説明会資料B、B-4） ①駅前には、南北に走る道路が一本しか無く、交通量が多く常に渋滞。 トナリエができた事で、トナリエ周辺の道も渋滞が多い。 病院が立つと、さらに交通量が増え渋滞は避けられないでしょう。 そのような場所で一刻を争う救急搬送はできるのでしょうか？ ②人口減少している町でも、駅前にマンション群、ちょっとしたスーパーが有り通勤圏で利便性のある駅前には住む選択肢に入りますが、駅前に病院があると救急車の騒音は避けることができず、選択肢から外れ、これから移り住んでくる人は、いなくなると思います。町の賑わいを病院建設で考えられているようですが、逆効果ではないでしょうか？ 病院の建設地について（資料C） 市立病院への患者は、大半が車で来ている様なので、なおさら渋滞する様な場所は避け、大きな道のある所に設置するのが賢明と考える。 そうすることで、救急搬送にも対応できるのではないのでしょうか。また土地の選択に交通量調査などし、慎重に決定して欲しい。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和５年６月５日～令和５年６月２５日）

- 【注記】
- ・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
 - ・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.		当市との関係	ご意見
33	市民		建設予定地について（市民説明会資料B-4、C） 資料には、産業会館・JR高田駅東側広場の一部とありますが、近隣住民に対してアンケートや説明会もなく、候補地として上がっている事に疑問を感じます。これはすでに決定なのでしょうか？JR高田駅付近は、踏切や狭い道も多く大きな病院を建てても、スムーズな交通の流れが出来るかどうか不安です。 また、周辺にはマンションが多く音が反響し騒音なども気になります。 候補地として、大中公園はどうでしょうか？大中公園を病院に、病院跡地を公園にする事はできないのでしょうか？面積的にも問題はないと思いますし、移動するリスクが最小限だと思います。 大きな問題で大変だとは思いますが、住民の意見を聞いた上で、再度検討していただく事を希望致します。
34	市民		（市民説明会資料B B-4について） 建設予定地に病院を建ててしまうと現在行っている催し物を開催する場所が無くなってしまって、高田の良さが消えてしまうと思います。 そして、人が集まる場所があるのは大事だと思います。 また、病院に入院されている方々にとって、窓から見える景色は、マンションや建物ではなく、大中公園や、その周辺にある桜を見れる方が良いのではないのでしょうか。 近隣住民の意見も聞いていただけるとありがたいです。
35	市民		【現市立病院】 広さ：2.5万㎡ まだ広くする可能性もあり。 周辺環境：桜並木、大中公園があり、通院の人、入院されている人にとって良い環境 災害時：大災害時の対応する場所をとることができる 【JR高田駅東側】 広さ：1万㎡ 周辺環境：袋小路で道路事情がよくない。渋滞が予想され心配です。 災害時：対応する場所をとることは難しい。 築53年の建物は建て替え必要だが、まだ使用できる東館や、なんとまだ8年の放射線棟を壊して使わないことなど考えられない。税金の無駄使いです！！ 使えるものは使える間大事に使うことが大切です。 産業会館もまだ十分に使用できる建物であるし、多くの方が現在利用しています。 それを壊すために買う。そしてまた新しい産業会館を建てる必要もある。やはり税金の無駄使いです。 大和高田市立病院は新築移転ではなく、現在の場所での建て替えが望ましいと考えます。多くの病院が病床を減らさずに増築、改築などしています。病床減らすによりよろしくお願いします。
36	市民		市立病院の移転先について、JR高田駅東側広場及び産業会館に反対します。 【理由】 ①駅前広場は長年多目的イベント広場として活用してきた経緯があり、市民にとって今後に必要な憩いの場所。 ②奈良県産業会館は、コロナ接種会場、各種商品の販売会場・食品食べ比べ会場等々、市民に密接な楽しさを与える催し会場を奪うことになる。 ③近隣マンションに与える深夜の救急車の騒音の迷惑行為。 ④自動車の進入路が狭く、交通渋滞の原因になる。現在すでにライフがあり、車の量が増えている。 【その他】 ①災害時の避難場所として体育館の他になく、駅前広場は必要な空地である。 ②市役所跡地が最適地と思われるため、再検討すべきである。 ③市民全体にアンケート調査を行う。 ④住民投票の実施。 ⑤今回の調査のやり方は市民全体に徹底していない。 ⑥意見提出用紙の置き場所を知らない人が多いと思われる。
37	市民		市民説明会資料B B-4に関して ・病院、マンションが壊れた場合 病人はどこに搬送しますか？ マンションの住人は駅前の広場に逃げ場を求めて来るでしょう。 せまい道路は人・車でいっぱい・・・ ・マンションが多くある為、考えてほしい 救急車のサイレンが昼夜関係ない為、反響音を考えて下さい。 どうしても建設するならば、住民に反響音のレベルを必ず住民に同意を得て下さい。
38	市民		①万が一、地場産業センター跡に建つとしたら、 ・日照問題（北側） ・工事期間中の騒音と振動に対する補償はありますか？ ②交通の渋滞問題はどうなりますか？トナリエへの買い物客で混むのにますます混みます。 ③同じ市立病院内に建て替えると収益が減るといいますが、中身の医療技術の向上を充実させるべきだ！！ ④産業会館の所在地よりも他にも検討するべきだ！！ ⑤住民の住環境を破壊しないでほしい。マンションだらけなのに。 ⑥病院はもっと静かな環境のところに建てるべきでは！
39	市民		市政だよりの意見に該当するかどうかわかりませんが思っている事を書きたいと思います。 移転は決まったという事ですので反論はしませんが、私は2020年に7回程の入退院をくり返し手術ののち今元気に生活させていただいています。出産以外で初めての入院でした。 その時、目の当たりした医師・看護師そして今まで知ることのなかった色々のお仕事本当に感謝の思いがいっぱいでした。 それと、長期間のため（2月～10月）ほっとしたのは最初桜の花でした。 見には行けないけど窓から見える満開の桜でした。そしてツツジ、紫陽花（一時帰宅の時見れました）など、そしてジョギングやウォーキング、子ども達の笑顔など病気とは関係はありませんが心が和み、又ホッとしました。 便利さを今は最優先される時代ですが、心の癒される数少ない場所と今なっている大中公園です。たくさんの方が訪れる大中公園です。 大和高田市が誇れる病院後の活用方法、移転先の緑地の大切さをお考えの上先に進んで下さい。大阪から、長男のぜんそくで当市に引越して45年位になります。すっかり治り元気にしていただきました。 主旨に合わない文になったと思いますが、大好きなこの市に対する想いです。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和5年6月5日～令和5年6月25日）

【注記】
・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との関係	ご意見
40	市民	第2 新病院整備の基本的な考え方 1、目指す姿と基本的な方向性の中で「いざと言うときに頼れる市民に愛される病院」とありますが、紹介患者を中心に受け入れることになるとか、入院診療を中心とした病院づくりとあります。地域では後継者がいなく閉院されているところもあり、かかりたい時にかかれる病院としての役割もないと市民は困ります。奈良県初の駅直結型の病院と言われても市民は、何の魅力も感じません。駅直結型で、賑わう？と言う発想もおかしくないですか？市民の要求はそんなことではなく、一人ひとりが大切にされる地域医療です。 幸町移転も白紙に戻していただきたいです。産業会館や、前の広場は、数少ない市民の集う場所です。現在の場所での建て替えを望みます。
41	市民	1. 建て替えについて 市立病院の老朽化、耐震の為の建て替えについては賛成です。 しかし、増築新築した部分は今後も使用可能な部分も多くあり、新築移転の方法を取らなくても、そもそもの目的である建物の耐震性能については解決できるのではないのでしょうか。現地建て替えは一部スペースがあるように思いますし、全て建て替えする必要もありません。それでもスペースが足りないというのであれば看護学校を少子化で空き教室のある近隣の高田高校や高田中学校へ移動といったことを検討できるのではないのでしょうか。現地建て替えの条件はあると思います。 2. 移転場所について 新築移転先の候補として駅前が第一候補として挙がっていますが、市立病院患者の7割以上は自家用車で来院していることを考えると、駅前に来たとしても利便性はそう変わらないと考えます。むしろ駐車場問題が発生し、病院玄関と駐車場が離れたり、職員の駐車場確保などが懸念されるように思います。近鉄、JRと2WAYで便利ですが、その分近くは線路が多く、渋滞が予想されます。JR高田南側の踏切は交差点と重なっており、今でも危険な箇所となっています。また外来患者の多い高田市南部、葛城市からのアクセスは悪くなります。 次に産業会館についてです。私は生まれてからずっと高田市民ですが、産業会館は幅広い催しがあり、さざんかホールより利用しています。中和地域においては必要な機能であると考えます。その他車の動線、近隣住民の救急車や交通量増加による騒音などもあり、近隣住民の意見を聞いて尊重すべきです。以上のような理由で駅前移転には反対です。 3. 費用について 新病院整備基本構想書約246億円には土地が含まれていない上、その他周辺整備費用も追加した総費用を明確にし、その上で各候補地を検討すべきです。借入も発生すると思いますが、市民がどれくらい負担することになるのかわかりやすい形（例えば、一人あたりいくらとか、他市と比較など）で示していただきたいです。それによる緊縮財政による住民サービスの低下は避けるべきです。 4. 医療機能について “いざという時に頼れる 市民に愛される病院へ” はぜひ実現をして頂きたいです。2040年には高田市人口3割減、医療需要も減少するのでコンパクトな病院でよいと考えます。公的病院の役割のひとつには近隣一般医療機関では対応できない部門、不採算部門でも市民の健康を守る役割があると思います。運営は不採算でも切り捨てが発生しない、営利目的とはならない形態が望ましいと考えます。地域支援病院という機能をもつのであれば病診連携、病病連携が重要であり、市内開業医、病院（土庫病院・中井記念病院）と合同で機能検討が必要です。 5. 市民への周知 説明会やパブリックコメントで出された意見については市民に目に見える形での回答を求めます。今後の検討には地域のことは地域で決める。もっと住民が参加できるような検討会などが必要ではないのでしょうか。
42	市民	駅直結とメリットが提示されているが、JRだと隣の駅は市外にあり、市民が電車で来院といったメリットは全くないことになる。線路の真横で、電車の音など入院患者には負担のある環境でもあると感じる。 今ある立体駐車場を病院の建物に建て替え、駐車場と入れ替えることで、同じ地に病院の建て替えができないのかと思う。西館を建てる前、駐車場があったように。その場所の発掘調査にも随分と時間がかかった記憶がある。 新しい地に直ぐに移転させるのももったいないと思う。
43	市民	第3の1の(2)移転候補地の選定経緯について。 ・今年1月に県と協定書を交し、6月にこのパブリックコメントにより、意見を募集するのは、順序が逆ではないか。 ・また、先に協定書を結んでから、後にパブリックコメントを募集するのは候補地選定の手続き上、法的に問題にならないのか。 ・移転候補地の一つに、高田高校が挙げられている。 現在高校が存在し、県立高校として施設の開設、利用されていると承知している。 よって、移転が実現不可能と考えられるが、その場所を移転候補地に挙げて、選定を行った理由をお聞きしたい。
44	市内在勤者	市立病院の建替えは必要だと思います。 市立病院に求められているのは、かかりやすい市民のための病院ではないのでしょうか。 産業会館及びその周辺に新築移転という計画については、もっと市民の声を聞いて検討すべきだと思います。産業会館の機能をどこに移転するのか。産業会館及びその周辺に新築移転するのが最も建築費が安価とのことですが、産業会館の及びその周辺の土地を更地にするための費用、産業会館の機能を移設するための費用なども計上されているのでしょうか。費用の積算根拠を知りたいところです。 また、「まちづくり」の視点から考えて、本当に産業会館周辺に市立病院を持っていくのは妥当なのでしょうか。市民と一緒に安心して住み続けられる高田市とはどのようなものなのか、どのようなまちづくりが求められているのか市民の声を聞き、まちづくり計画を明確にして、その中で市立病院の建替えを考えるべきだと思います。
45	市民	私は二人の子どもがおり、市内在住で市内で働いています。 昨年、年末に子どもが自宅で怪我をして緊急に市立病院で受診させてもらい、とても助かりました。その後も、検査や怪我の状況確認で数回受診させていただき、良かったです。市民が受診したいときに受診できる身近な病院。これが市立病院の大切なポジションだと考えます。 また、駅前に移転予定とのことですが、駅前に移転するメリットは全く感じられません。今より半分に狭くなる敷地でしかも駅前で、安心してゆっくりと療養できる環境とは思えません。また、奈良県は車社会でどこに行くにも自家用車が一番です。駅前でゆとりのある駐車場が準備できるとは思えません。 また、先日、私自身がMRI検査を受けましたが、あの建物は新しく、機器類も最新のものが入っていると思います。それを移転のために取り壊すのは税金の無駄遣いではないのでしょうか?診察を続けながら老朽化した建物を壊してその場に建てる。ということが現実的ではないのでしょうか? 看護学校とその寮についてはどうなるのか出ていませんが、自前の看護学校を持ってきちんと教育をして大和高田の医療を支えるという、とても大事な役割も継続してほしいと思います。 私は、自分の経験と以上の考えを持っているので、移転新築には反対します。 ぜひ、今の場所で医療活動が続けながら古い建物を建て替える。という方法に変更してほしいと思います。

「大和高田市立病院新病院整備基本構想（案）」に対するご意見と市の考え方
（パブリックコメント実施期間：令和５年６月５日～令和５年６月２５日）

【注記】

- ・文意に影響が出ない範囲で誤字・脱字等を修正しています。
- ・勤務先や住所が含まれるご意見は、該当箇所を「●●」としています。

NO.	当市との 関係	ご意見
46	市民	病院の建て替えは耐震上必要かと思いますが、建設費用がどこから出るのか、市民税に影響しないのか明らかにして下さい。また、移転計画が高田市の活性化になるとは思われなし、市民にとってアクセスも良くなるとは思われなです。紹介状がなければ診察料が高くなります、誰もが安心して受診しやすい病院を願います。個室料低額や無料低額診療も取り入れて下さい。